

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	水力学 I B
科目基礎情報					
科目番号	14203	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械工学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	「水力学・流体力学」 市川常雄 著 (朝倉書店) ISBN:978-4-254-23536-4				
担当教員	松田 充夫				
到達目標					
(ア) 平行二面間の層流と円管内の層流の現象を理解できる。 (イ) レイノルズ数を理解し計算できる。臨界レイノルズ数が理解し使用できる。層流と乱流を理解できる。 (ウ) 粘性摩擦応力、レイノルズの応力、うず度、混合距離、層流底層、境界層、境界層の排除厚さを理解できる。 (エ) 助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失を計算することができる。 (オ) 開きよを理解し、簡単なモデルに対して計算することができる。 (カ) 物体に働く力、圧力抵抗、摩擦抵抗、回転円板、揚力、翼を理解し、簡単なモデルに対して計算することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	層流と乱流を理解し、レイノルズ数を計算できる。	層流と乱流を理解できる。	層流と乱流を理解できない。		
評価項目(イ)	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。	助走区間の流れを理解できる。	助走区間の流れを理解できない。		
評価項目(ウ)	物体に働く力を理解し、簡単なモデルに対して計算できる。	物体に働く力を理解できる。	物体に働く力を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	流体の力学に関する学問は、飛行機、自動車、扇風機などの周りの流体の流れ、エアコンの吹き出し口、ポンプや配管システムなどの内部の流体の流れなどが、それぞれの商品やシステムの性能向上に関与しているため必要とされている。水力学では、流体の力学に関する基礎知識と基本的な解析方法と計算方法を学び、本学科の「水力学」と専攻科の「流れ学」への橋渡しをする。この水力学IBでは、粘性流体の流れ、管路と開きよ、抗力と揚力の基礎理論の理解と基本的な解析方法および計算方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	自学自習内容として、毎回の授業内容に相当する学習課題を指定された期日までに提出すること。				
注意点	事前に履修・修得が望ましい科目：基礎解析Ⅲ、応用物理学。 試験・課題ではキーワードを入れて論理的に記述し、常に単位を書くこと。 本講義は水力学IAの内容を理解していることを前提としている。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	粘性流体の流れ(1)：層流と乱流、平行二面間の層流、円管内の層流	平行二面間の層流と円管内の層流の現象を理解できる。	
		2週	粘性流体の流れ(1)：層流と乱流、平行二面間の層流、円管内の層流	平行二面間の層流と円管内の層流の現象を理解できる。	
		3週	粘性流体の流れ(2)：レイノルズ数と臨界レイノルズ数、乱流の速度分布、境界層	レイノルズ数を理解し計算できる。臨界レイノルズ数が理解し使用できる。層流と乱流を理解できる。	
		4週	粘性流体の流れ(2)：レイノルズ数と臨界レイノルズ数、乱流の速度分布、境界層	乱流の速度分布、境界層を理解できる。	
		5週	管路と開きよ(1)：円管における圧力損失、円管における管摩擦、ムーディ線図	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。	
		6週	管路と開きよ(1)：円管における圧力損失、円管における管摩擦、ムーディ線図	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。	
		7週	管路と開きよ(2)：円管以外の管摩擦、管路における諸損失、管路の総損失と流量	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。	
	8週	管路と開きよ(2)：円管以外の管摩擦、管路における諸損失、管路の総損失と流量	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。		
	9週	管路と開きよ(2)：円管以外の管摩擦、管路における諸損失、管路の総損失と流量	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。		
	10週	管路と開きよ(2)：円管以外の管摩擦、管路における諸損失、管路の総損失と流量	助走区間の流れを理解し、管摩擦損失や管路における圧力損失が計算できる。		
	11週	管路と開きよ(3)：開きよ	開きよを理解し、簡単なモデルに対し、計算ができる。		
	12週	抗力と揚力(1)：物体まわりの流体現象、物体に働く力、圧力抵抗、摩擦抵抗、回転円板	物体に働く力、圧力抵抗、摩擦抵抗、回転円板を理解できる。		
	13週	抗力と揚力(1)：物体まわりの流体現象、物体に働く力、圧力抵抗、摩擦抵抗、回転円板	物体に働く力、圧力抵抗、摩擦抵抗、回転円板を理解できる。		
	14週	抗力と揚力(2)：揚力、翼	揚力、翼を理解できる。		
	15週	抗力と揚力(2)：揚力、翼	揚力、翼を理解できる。		
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	課題	合計	

総合評価割合	30	50	20	100
専門的能力	30	50	20	100